

< もくじ >	
1. 今年度連続講座受講受付開始のお知らせ	1
2. 研究会からのお知らせ	1
3. 各研究会の概要報告	2

1. 今年度連続講座受講受付開始のお知らせ

本年（2015年度）の連続講座について開催概要と受講受付開始をお知らせいたします。参加は各回ごとに自由にお選びいただけます。従来と同様、6回全講座の一括申し込みも割引参加費にてお受けします。概要につきましては、別途添付いたしますチラシもご参照ください。今後は、ホームページでも随時お知らせします。

《 2015年度 連続講座・銀座サロン開催のお知らせ（ケーキ、コーヒーor紅茶付き） 》

1) 全体テーマ：『人生100年時代 ～最期の時を安心して迎えるには』

各回テーマと講師

- ・第1回 2015年9月5日（土）
「人生100年時代、悔いのない人生のしめくりに向けて」（袖井孝子）
- ・第2回 2015年10月10日（土）「長寿時代の生活設計」（木村嘉男）
- ・第3回 2015年11月21日（土）「相続が争族にならないために」（加藤 隆）
- ・第4回 2015年12月19日（土）
「老妻介護と在宅看取り～個人的体験から」（沖藤典子）
- ・第5回 2016年1月23日（土）「あなたらしい葬儀と墓」（荒井浩道）
- ・第6回 2016年2月20日（土）「納得の旅立ちのために」（志藤洋子）

2) 場 所：東京銀座・資生堂 9Fホール

3) 開催要領：各回とも、14時～16時の開催。募集人数は最大45名。

各回の参加費は、会員2,500円、非会員3,000円。

6回分一括前納の場合、会員12,000円、非会員15,000円。（8月末締め切り）

※今後ともJAAS Newsなどで随時お知らせいたしますが、ご家族やご友人などにもお声掛けいただき、多数の方のご参加をお願いいたします。（事務局担当 鈴木）

2. 研究会からのお知らせ

(1) 第23回「災害と地域社会」研究会開催について（再掲）

1) 日 時：2015年7月23日（木） 18:30～20:30

2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 33号館 16階第10会議室

3) 報告者：宮定 章（博士[工学]、認定NPO法人 まち・コミュニケーション代表理事
専修大学 非常勤講師、同大学社会科学研究所客員研究員）

4) タイトル：“集落存続危機”と“集落存続への模索”～復興事業（長期化）の中で、石巻沿岸部の被災者の生活再建・居住地選択から見えること～

5) 参加費：500円（学生は無料、ただし社会人入学者を除く）

※お問い合わせ、参加申込は事務局・福原（fukuhara@jaas.jp）迄お寄せ下さい

(2) 第23回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2015年7月28日(火) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：安田コーディネーター司会による座談会：「小説『限界集落株式会社』を素材に、コミュニティの構造を討議。」(第2回)

*7月16日(木)開催した第1回座談会に引き続き、同一テーマで第2回を開催します。討議の内容をより充実させると共にまとめを行ないます。(島村記)

(3) 第89回 社会保障研究会 開催のお知らせ

- 1) 日 時：2015年9月30日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：王 凍(城西国際大学大学院)
- 3) テーマ：「中国高齢者事情(仮)」
- 4) 会 場：労働者協同組合 会議室

東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階

※ご質問がございましたら、佐藤まで。090-4436-6853 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp
なお、8月は研究会はお休みです。

(4) 第22回「シニアのICT活用研究会」開催のご案内

9月の月曜日に開催の予定で調整を進めています。

開催日、話題提起者が決定次第、シニア社会学会のホームページでご案内致します。

- 1) 日 時：2015年9月の月曜日 17:00~19:00
- 2) 場 所：(公財)ダイヤ高齢社会研究財団 会議室
新宿区新宿一丁目34番5号直田ビル3階
- 3) 話題提起者：未定
- 4) テーマ：未定
- 5) 参加費：500円

※参加のご連絡およびご質問については、澤岡 sawaoka@dia.or.jp(@は、半角にしてメール送信ください)までご連絡ください。

3. 各研究会の概要報告

(1) 第87回 社会保障研究会

- 1) 日時：2015年6月25日
- 2) 場所：日本労働者協同組合会議室(豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル8階)
- 3) 講師：酒井忠昭(NPO法人ホームケアエキスパート協会理事長)
- 4) テーマ：「改めて医療基本法を」

日本の医療の現状をみると、医療費の増大、医師の疲弊、救急患者の受け入れ拒否、三時間待っての三分診療、検査漬け・薬漬け、過誤や不正による医療訴訟など問題山積である。英国ではブレア政権の医療改革によって、計画から10年かけて、患者中心の医療、自治体への権限移譲、政策形成への住民参加、地域格差の是正などを実現した。

医療は国民の共有財産であり、行政の縦割りや医師会をはじめとする利益集団のエゴを廃し、患者本位の医療を確立し、公共性に基づく資源の公平な配分を行い、地方分権と住民参加システムを構築し、医療の可視化を進め、医療各セクターの負担と責務を明らかにする「医療基本法」の制定が求められる。「医療基本法」は、民主党政権の時代に、日本医療政策機構(黒川清代表理事)が提案し、各政党議員、医師会、患者団体などでの議論を積み重ねて、国会上程寸前まで行った。しかし、残念ながら政権交代で、実現には至らなかった。

会場からは、医師会や製薬業界の硬直した態度に問題があることは確かだが、患者自身の大病院指向

を改める必要がある、英国のホームドクターのように患者の生活や家族にまで通暁している医師を養成するにはどうしたらよいか、医師が検査をしたがるのには診療報酬制度に問題がある、など活発な議論が展開された。(袖井孝子 記)

(2) 第21回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：6月25日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：①濱口座長のレクチャー

『第1章 コミュニティ、浮上—コミュニティからブレンドコミュニティへの変貌
②質疑応答・意見交換

*今回は、『出版本』の第1章に掲載される原稿をベースに、濱口座長からレクチャーをいただいた。座長はいまの時代「コミュニティ、浮上」「コミュニティ、参上」であり、かつての日本は「ゆい」を必要としていたコミュニティ、すなわち「コメニティ」が変容し、「ブレンドコミュニティ(blend community)」が浮上して来た。と説かれた。レクチャーの後、活発な質疑応答・意見交換が行われた。(島村記)

(3) 第22回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2015年7月16日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：安田コーディネーター司会による座談会：「小説『限界集落株式会社』を素材に、コミュニティの構造を討議。」(第1回)

*コミュニティの「ところ定まれば、こころ定まる」とはどういうことか、コミュニティの要件は何か等について参加者全員で討議が行われた。特に時代の変化とコミュニティの関連について活発な意見が交わされた。(島村記)

一般社団法人シニア社会学会・事務局(月・水・金オープン)
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階
電話&FAX:(03) 5778-4728
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>